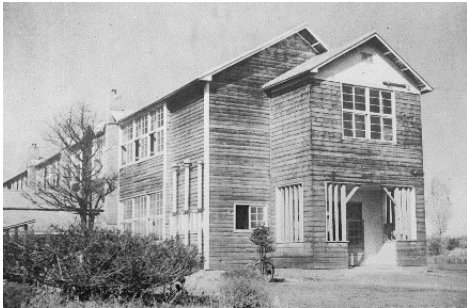


5月26日は「開校記念日」です

札幌市立琴似中学校

昭和22年(1947年)5月26日は、本校の前身である札幌郡琴似町立琴似中学校が、旧青年学校と琴似小学校の校舎の一部を仮校舎として借りて開校し、開校式を行った日です。初代校長には小森庄吉氏が着任し、当時は全学年7学級、生徒数は320名でした。

昭和22年10月には現在も使用している「校章」が制定されました。このデザインは、開拓当時、この辺り一面に稜々たる柏の大樹が生い茂っていましたが、これを切り拓いた不撓不屈の開拓精神を象徴して、5つの柏葉(真実の葉・責任の葉・正義の葉・自主独立の葉・敬愛の葉)を外側に表現し、協力を示す輪(和)の中心に、校名である「琴中」としるし、ここで学ぶ者の誇りと理想を象徴したものとなっています。

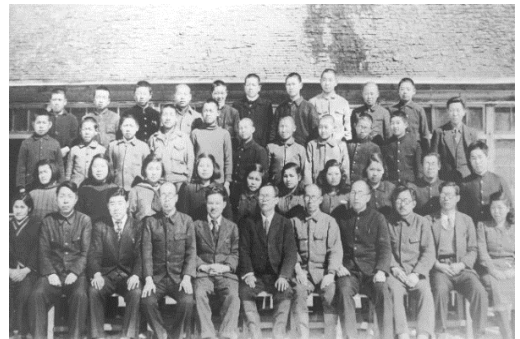


旧校舎

昭和24年6月には旧校舎を現在の場所に、第1期工事として普通教室8、管理諸室を建設しましたが、1年生と2・3年生は別々の校舎で授業を行わざるを得ませんでした。そのため同年8月には、すぐに第2期工事に着工しました。

校舎竣工を記念して昭和24年6月には校歌が制定されました。校歌の1番では「手稻の連峰を仰ぐこの学園の、新しい時代をつくる

であろう希望に満ちた若き先駆者の誇りは、柏葉の校章である」と歌い、2番では「石狩平野の一角にある琴似の地に、代々受け継いだ開拓魂をもって新しい理想の郷土、社会をつくりあげる使命こそ、我々若き先駆者の希望であり、共同の責任として前進している意気を見てくれ」と歌い、3番では「新しい時代を創造する者たちは、統一を自覚し、共同集団として行動できる力の持ち主でなければならない。つきない川水のごとく、たゆまぬ努力を続け、あらゆる困難に打ち勝ち、真実に生き、大きな希望にあふれている若き先駆者の前途に栄光あれ」と結んでいます。



第1期卒業生の皆さん

その後、増築工事が繰り返され、昭和26年には念願の旧体育館が整備されました。この様に増築に次ぐ増築となったのも、開校当時、全校生徒は320人しかいなかったが、校旗が制定された開校5周年の時には全校生徒は700人を超え、琴似町の発展とともに毎年100人を超えるペースで生徒が増え続け、昭和29年には1,000人を超えるマンモス校となりました。



昭和36年当時の旧校舎(校舎があるのは今の山の手図書館の場所です)

そして、翌昭和30年には琴似町が札幌市と合併し、校名が現在の「札幌市立琴似中学校」に改称されました。琴似町が札幌市と合併して、琴似地区の発展は急速に進められました。開校10周年を迎えた昭和32年には生徒数は1,400人を超え、1学級の生徒数も60人に達するまでとなりました。

このようなマンモス校の状況でしたので、昭和34年4月には併設されていた盤溪分校が盤溪小・中学校として独立し、翌昭和35年12月には陵北中学校が開校し、1・2年生208人が本校から

移動しました。さらに、翌昭和36年12月には八軒中学校が開校し、1・2年生508人が移動しました。

それでも、本校の全校生徒は2,000人に迫る期間が数年間続いたため、昭和42年12月には発寒中学校が開校し、1・2年生368名が移動していきました。



八軒中学校への1・2年生の見送り

徐々に生徒数は減少してきましたが、それでも全校生徒1,000人を超える状況は変わりませんでした。そこで昭和45年からは新校舎建設に向けてPTAや地域、同窓会の方々が札幌市への陳情を繰り返し行い、そのおかげで昭和50年12月には待望の新校舎（現校舎）の1期工事が



陵北中学校への1・2年生の見送り



発寒中学校開校の様子



開校30周年の時の新校舎

完成しました。翌年も引き続き工事が進められ、2・3年生が新校舎での授業を受けることができるようになりました。翌昭和52年は開校30周年を迎える年にあたり、新体育館（現在の体育館）も完成し、記念式典が行われました。

ここまで、あまり皆さんが知らなかったであろう、開校30周年までの歩みを中心に記してきました。その後、時代は昭和から平成へ、平成から令和へと移り変わっていきました。どんなに時代は変わっても卒業生や地域の皆さんが、

この琴似中学校に寄せる思いに変わりはありません。今日の開校記念日を機会に、この学び舎を卒業された25,000名以上の先輩たちがどのようなことを考え、琴似中学校をどんな学校にし、後輩である皆さんたちに何を伝えたかったのかを考えてみてほしいと思います。

生徒会が作成した、琴似中の開校から今日までの流れを紹介する動画は、このQRコードから見るができます。

